

建築・インテリア・照明の境界を曖昧にする

厚さ0.5mmの光土壁

とんかつ キムカツ 恵比寿本店

設計：小川博央建築都市設計事務所 小川博央
上関理央
施工：小林芸社 特殊佐官 久住 章
田中左官工業所



個室席から中央の客席側を見る。光源にテーブルライトを用いた内照部はアクリル象嵌の上に厚さ0.5mmの特殊左官土壁

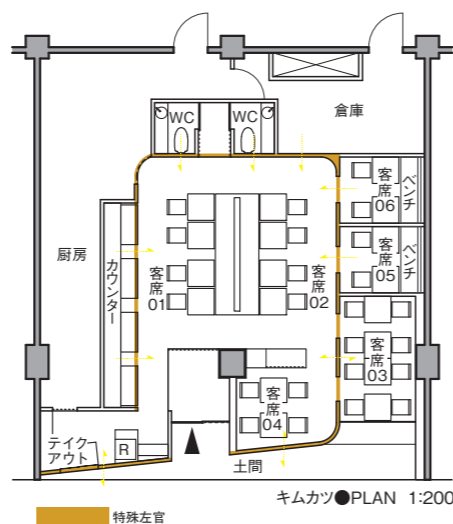
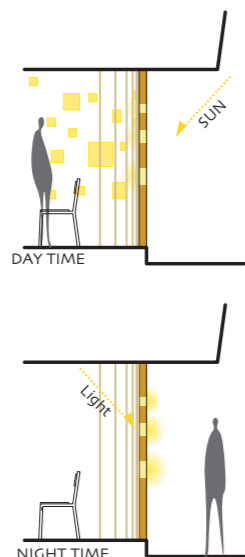
光の緩やかな変化をデザインする

土壁にランダムに光を透過させることによって光それ自体が装飾となり浮かび上がり、空間を演出するように計画している。また時間変化や季節変化、天候変化による人工光と自然光を使った光の緩やかな変化を飲食店舗という昼夜二つの顔を持つ空間デザインに利用した。土壁という空間全体を構成するテクスチャーを光が透過することで建築、インテリア、照明という垣根を曖昧にし、すべてが溶け合った空間となっている。

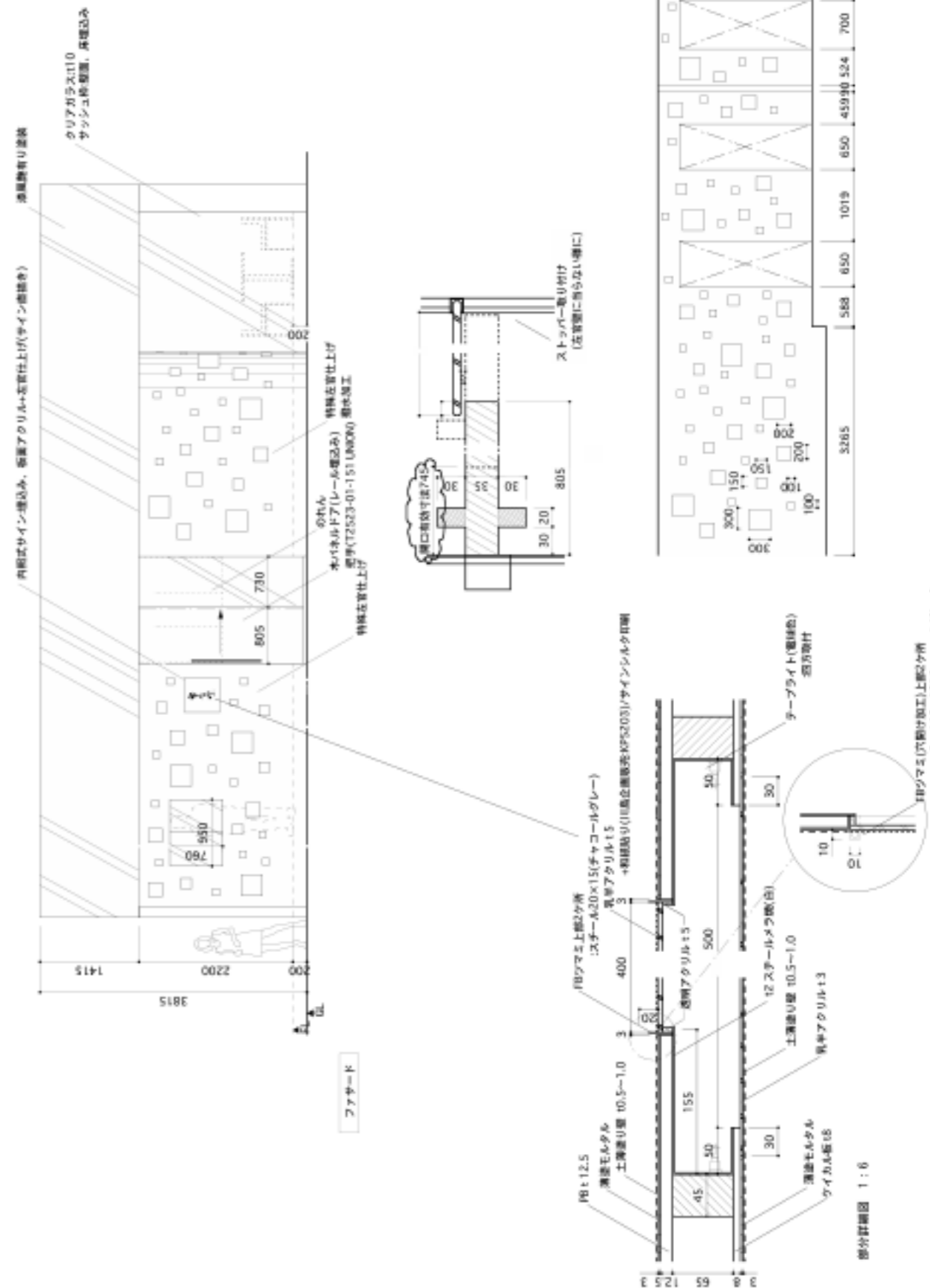
詳しくは、モルタル壁にアクリル板をランダムに象眼し、その上に最大厚0.5mmで海草糊と糞等を混ぜた土を左官し、空間を包み込む内外壁面全体をシームレスに仕上げている。昼は外からはただの土壁に見え、内部に光を透過し、日が暮れるにつれ、それらの現象が逆転してゆく。内部においては、各個室の光が土壁を透過し空間を演出している。

土壁は光を透かさないと固定観念を覆し、自然光と人工光の順光と逆光を巧みに利用した照明演出手法である。

〈小川博央〉



時間とともに変化する境界
昼は外からはただの土壁に見え、内部に光を透過し、日が暮れるにつれ、それらの現象が逆転してゆく。内部においては、各個室の光が土壁を透過して空間を演出している。



キムカツ恵比寿本店●特殊左官土壁立断面図 1:80